

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371600731		
法人名	杉友商事株式会社		
事業所名	グループホームあすなろ 2F		
所在地	愛知県名古屋市長区島田2丁目621番地		
自己評価作成日	平成27年12月31日	評価結果市町村受理日	平成28年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市長区百人町26番地 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成28年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『入居者様がゆったり楽しく生き生きと暮らして行けるように支援する』理念を念頭に入れ、入居者様に寄り添い笑顔がみられるように支援している。自ら行動し希望を言葉で表現できない入居者様には生活歴や日々の表情より好きな事、喜ばれる事を推測し、穏やかに暮らせるように支援している。散歩や買い物に出かけたり、月1回の外出、外食、喫茶、カラオケ店等への外出支援をしている。馴染みの場所や喜ばれる場所へ出かけるようにしている。介護度が重度で座位が保てない入居者様に対し、室内でゆったり過ごせるようにしている。また個人の嚥下状態に合わせ食事形態を工夫している。年2回のバス旅行と地区の農家との触れ合いを楽しみながらのみかん狩り、さつま芋掘りを行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1年を通して天気の良い日は、ほぼ毎日下肢筋力低下予防の為に散歩に出掛けたり、レクリエーションではボール、風船を使っての体操とパズル、ことわざ遊び等の脳トレを行っている。法人の理念とホーム理念「入居者様を尊重し、明るい笑顔あふれるユニット作りをする」を念頭にいれ、毎月ユニット目標を立て、職員一人ひとりが3か月毎に個人目標を立てるなどサービスの向上に努めている。第二の家と思えるように職員が寄り添い、見守る中で利用者はそれぞれ好きなようにやりたい事をやり、食事の下ごしらえ、洗い物、洗濯物たたみ等自発的に自分の出来る事を行っている。ホームの外出支援の他に利用者の馴染みの場所、行きたい場所に行けるように個別支援を行って楽しんで貰っている。管理者は根気強く回覧板やポスター、会議の場等で介護相談会を実施する為に地域に呼び掛けを行い、地域との交流の輪を広げたり、利用者家族と関係をさらに強く築ける対応を検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し共有するようにしている。ユニット会議で理念を踏まえた月の目標を立てて実践し評価しフィードバックしている。スタッフルーム、玄関に理念を掲示している。	理念を掲示し、朝の申し送り時に唱和している。ユニット会議で理念を踏まえて月目標を立てたり、3か月毎に個人目標を立てることで、意識の統一を図り実践し、評価しながらケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物時に地区の方と挨拶を交わしている。地区の中学校生徒の勤労体験学習を受け入れ交流している。地区の農家にみかん狩り、さつま芋堀りに出かけている。町内会にも入っている。	町内会に加入し、回覧板を利用者と一緒に廻したり、散歩の際は挨拶を交わし日曜はゴミ拾い運動も実施している。地区の夏祭りや敬老会に参加したり、近所の人から野菜の差し入れがあるなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者に対し実践内容を説明している。地域支援センターと連携をとり認知症カフェ、介護相談会を当施設で開催し理解を深められるよう発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員に報告し意見、感想を伺って、今後のサービスに活かしている。地区の行事を教えて頂き参加する機会が増やせるよう検討している。	会議は2か月毎に実施され、スライドを観ながらホームの活動報告を行い、参加者から意見や情報、助言が得られ運営に反映されている。議事録は職員に回覧し、共有されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員として1回/2ヶ月の会議に参加して頂き連携を取っている。入居者様の様子、実情を伝え、相談しサービスの向上を図っている。生活保護係の担当者とも情報提供、連絡を取っている。	区役所には、書類の申請や生活保護関係で出向いた際に情報の交換を行ったり、生活保護係の人がホームに来訪の際は、相談やホームの様子を伝え連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を毎年行い、共有認識しケアを振り返り、拘束のないケアを目指している。玄関の施錠のみご家族の理解の上、実施している。スピーチロックについても学び、実践している。	年間の勉強会に身体拘束が組み込まれ、職員は具体的内容と弊害を理解している。玄関の施錠は家族の同意が得られている。ケアの中で何か有れば、管理者はその都度指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年定期的な研修を行い理解を深めている。ユニット会議でケアを振り返り、共有理解し虐待防止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニット会議で研修し理解を深めるようにしている。権利擁護については必要時施設長、管理者で対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分時間をかけ説明、理解を得ている。改定時においても説明をし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、来訪時やTel連絡時に意見、要望を聞いている。会議で苦情対応の研修を行い、苦情報告書を基に検討し再発防止、サービスの向上に生かしている。	利用者には日々の関わりの中で聞き、それを職員は共有している。家族からは来訪時や電話連絡の際に意見、要望を聞くように努めている。出された意見、要望は話し合い運営に反映出来るように改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全事業所で社員アンケート調査を行い、意見、提案の把握をし運営に反映させている。また随時個別面談を実施し、意見を聞いている。	法人内の社員アンケートにより、リフレッシュ出来る取り組みとして交流会やボーリング、バス旅行等企画されている。年2回の個人面談の他に管理者は日頃から職員の意見を聞くように心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケート、面談等の結果を踏まえやりがいのある職場環境作りに努力している。年2回の人事考課により職員の資質を把握しやりがいもてるよう反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合う外部研修を奨め、シフトの調整をしている。年間計画を基に各ユニットで総合研修、認知症研修を行っている。レベルアップできるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の際同業者との交流があり情報交換している。社内交流会、研修時に他事業所との交流があり情報、意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談でアセスメントを行い、要望を聞いている。入居されてからは言動、表情を観察し、寄り添い不安のない生活ができるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話聞き要望を取り入れ介護計画立案に参加して頂きケアサービスの内容を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の話聞き状況把握し、要望に沿った支援をしている。各種のサービスがあることの説明をしている。必要に応じ資料提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に家事活動を行い、入居者様の力を引き出しつつ、家事活動における知恵、教えを頂いている。過干渉、過介護になり過ぎないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通信により毎月の様子を報告し情報を共有している。面会の少ないご家族には月1回はTEL連絡し、要望を聞き支援の仕方を相談している。信頼関係を築いた上で、通院介助や外出支援の協力を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じ知人、友人の訪問を働きかけている。知人、友人と馴染みの寺社、喫茶店、買い物等へ出かける支援をしている。	友人との外出や、訪問、電話の取次ぎ、暑中見舞いを書く等馴染みの関係が継続出来るように支援している。家族の協力を得て自宅に泊まったり、墓参り、美容院、外食に行く人もいる。入居後スーパーや喫茶店等が新しい馴染みの場になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士での散歩や買い物の支援をしている。食卓席の配慮をしたり仲間同士での喫茶外出やカラオケ外出支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた場合情報提供をし不安なく過ごせるよう係っている。入院時にはご家族や医師、看護師と連携し、経過報告やその後のケアについて相談を受けれるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志疎通が困難で希望を表現できない入居者様には生活歴や趣味、本人の表情から推測判断し意向に沿えるよう努めている。ご家族からの言葉、情報も参考にしている。	話すことが困難な利用者には、耳元で短い言葉を使いはっきりと表現し、聞こえるように意思疎通を図りながら、何か伝えたいことがないのかを汲み取ろうと努力している。家族から聞くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談で聞き取りしている。不明瞭なことは面会時に聞き取りしたり本人の記憶をたどり聞きだしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックし、状態に合わせた過ごし方を検討、共有している。個人日誌に毎日の暮らしの様子を記入し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に2名ずつのカンファレンスを行い、ケアについてモニタリングしている。ご家族、職員の意見を反映し、見直しし現状に即したプランを作成している。	利用者一人ひとりの担当が、3~4か月ごとの「生活シート」をもとにカンファレンスを行い、職員全員で共有している。カンファレンスには介護度の低い利用者にも参加してもらい、意見や要望を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子を記入し本人様が発した言葉は赤字で記入し、職員間で情報共有している。発した言葉や心理状況をケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスを利用したり連携し行事を共に行なっている。状況に応じて生じるニーズに柔軟に対応できるようサービス支援の方法を他事業所と連携する等検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアとの交流や地域の買い物での触れ合いにより豊かに暮らしている。公共交通機関を利用しての外出支援を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に希望のかかりつけ医を聞いている。ホームドクター以外のご家族希望の係りつけ医への受診、通院介助を支援している。緊急時のご家族の希望を聞きつつ医師と連携を取るようにしている。	入所前からのかかりつけ医を希望の場合は、基本的には家族に付き添いをお願いしているが、無理な時は通院の支援もする。歯科は連絡をすれば随時訪問診療してくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているデイサービスの看護師に相談したり、週1回の契約看護師来訪時に情報交換、アドバイスを受けている。ホームドクターの往診時や急変時に看護師に情報を伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供し、状況の把握に努めている。入院中及び退院時にはご家族、病院関係者との情報交換を密にし関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合についての指針の説明を入所、契約時に行っている。また状況変化に対応しその時々で話し合いしている。本人、ご家族の意向を尊重しつつ方針を決定し医療、看護師との連携を図っている。	入所時に、重度化した場合出来ることと出来ないことの説明をしている。重度化した時は変化がある度に家族と話し合いながら方針を決めている。看取りの経験もあり、その時に世話をした職員はミーティングで自分の経験を話し、職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてマニュアルを基にユニット会議で研修を行っている。初期対応の訓練を実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を行っている。夜勤体制での避難を想定しての訓練も行っている。町内会の消防団との連携をとり応援要請をお願いしている。消防署からもアドバイスを受けている。	年2回訓練を行い、1回は火災訓練、もう1回は夜間帯を想定しての災害、火災避難訓練を行っている。今年はシーツを使って利用者を選び出す訓練も行った。火災の時は目の前に消防署があるので直ぐに駆けつけてくれることになっており、大雨の時も心配して消防が訪ねて来てくれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修で倫理、尊厳、接遇の研修をしている。一人ひとりの尊厳、プライバシーを大切に、その方に合った言葉かけ、対応をしている。	一人ひとりの好みに合わせてどのように関わりを持って接するかを常に考えている。親しみをもち、それでいて慣れ合いにならず、人格を尊重し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食、喫茶や日常の食事での献立メニューで希望を聞いている。衣類を迷い選べない方には2者択一で選べるようにしている。表現出来ない方には表情、仕草、態度から察し汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意向を大切に希望に沿うよう支援している。施設の日課を基本に提案し選べるように支援している。理解、判断できない場合はゆったり過ごせるよう配慮している。表情から気持ちを汲み取るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望、体形に合った衣類をご家族と相談して用意している。選べる方にはご本人に確認している。髪型もその人らしく希望を取り入れ美容師に注文している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に調理、配膳、片付けをしている。立位が保てない方は座って食材切りに参加されている。フリーの献立時は好みの物や得意料理のメニューと一緒に考え取り入れている。	業者を使用しているので基本的には献立と材料が届くが、月に10日程フリーメニューの日を設け、その日は行事食や利用者が食べたい物を献立に反映し、利用者は食材の買物にも出かけている。利用者は調理、配膳、後片付けも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材会社の献立を利用しており栄養のバランスは考慮されている。嚥下状態に合わせ食事形態を工夫し食事摂取量を記録している。水分摂取のため好みの飲み物やお茶ゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご本人の力に応じ声かけ、介助を行っている。うがいのできない方には口腔ケア用ティッシュも活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録により排泄パターンの把握をし、トイレの声かけ、誘導をしている。プライバシーに配慮した声かけをしている。	「排泄チェック表」をもとに、排泄パターンを職員全員で共有している。無理強いをしない声かけを心掛けている。嫌がる利用者には時間を置いて、もう一度声をかけるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を記録し繊維質の食物摂取、朝の冷たい牛乳や乳酸菌飲料の摂取をしている。個々の状態により散歩、腹部マッサージ、体操等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿うように支援している。拒否のある場合はタイミングを図って声かけ入浴を楽しめるよう支援している。冷え性の方や希望する方に入浴のない日は足浴している。	基本的には週3日入浴支援を行っているの、利用者の希望にも応じて支援することができる。季節湯として、菖蒲湯や柚子湯などを楽しんでもらっている。入浴日以外の日も希望に応じて足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ臥床休養できるよう支援している。入床前は安眠できるよう落ち着いた対応をしている。ベッドが苦手な方には布団で眠るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の用法、副作用を研修で学んでいる。粉薬に変更してその方に合わせた服薬支援もしている。症状に変化のある時は主治医に相談し、薬の変更の場合全スタッフで共有し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事、楽しめることを表情、言葉、行動より観察し常に勘案している。いきいきとした表情がみられるような余暇活動や外出の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩へはほぼ毎日出かけている。月1回の外出、外食の企画を希望を取り入れて立て、出かけている。バス旅行等遠出の外出は家族やボランティアの協力を呼びかけ外出支援している。	毎日の日課となっている散歩をはじめ、月1回の外食、外出支援の他年2回のバス旅行も実施している。個別支援として利用者が行きたい場所へ、できるだけ公共交通機関を使用し出かけている。車椅子の人も花見や地域の夏祭りにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力を把握し御家族と相談の上、金銭所持し買い物できる支援をしている。金銭所持してない方には必要品、嗜好品等買い物できるよう立替払いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけ話ができるようにしている。また友人やご家族の協力を得て電話して頂き話ができるよう取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱のないよう表示を工夫している。季節感を感じられるよう職員とご入居者が一緒に貼り絵等掲示物を作り展示している。歌謡曲や唱歌等好む音楽を流している。	利用者が何処でも座れるようフロアーに沢山のソファが置いてあり、窓からの太陽の日差しで、外出出来ない利用者は日光浴を楽しんでいる。壁には利用者が書いた書道や塗り絵が飾られており、フロアーには懐かしい曲が流れ、歌声や笑い声があふれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置し思い思いの場所で独りでも過ごせる空間作りをしている。独歩での歩行困難な方には相性の良い人と座れるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等ご持参頂き馴染みの環境を整えている。ご仏壇や思い出深い写真、人形等を配置し心地よく暮せるようにしている。	ベッド、チェスト、カーテンは施設が用意した物を使用し、使い慣れた座机や仏壇など、入居時に使用していた物を出るだけ持参してもらい、居心地良く過ごせる居室を心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札やトイレ等の表示は職員とご入居者で作成し、解りやすいよう工夫している。建物内部は自由に行き来できるようご自身でエレベーターを使い移動できるようにしている。		